



### テーマに込めた私たちの思い — メインテーマ「命の守り手として生きる」 —

2011.3.11 震度6強の東日本大震災が起き、沿岸部は大きな津波被害と福島では原発事故が起きました。多くの尊い命が奪われ、激しい揺れの中で保育施設では、子どもたちの命を守る瞬時の判断が行われました。この年の6月に山形で第50回全国集会在開催され、全国の仲間の皆さんの温かい励ましや支援をいただきました。その後全国保問研では震災学習委員会がつくられ、災害から子どもの命を守るための学びをつくってきました。12年が過ぎ、今被災地では震災遺構が整備され語り継ぐ取り組みが行われています。

テーマを震災に寄せて実行委員会で検討しているとき、そこにロシアのウクライナ侵攻による戦争で子どもや人々の命が無残に奪われる映像に私たちは衝撃を受けました。戦争という命と人権を奪う最大の暴力を許さないことがこのテーマに重なります。そして、国内でも保育施設で、送迎バスへの子どもの置き去り、保育者による虐待事件に保育関係者は心を痛め辛くなります。子どもたちを安心して保育できる条件も含めて、命の守り手として、人権を尊重し命の輝きをつくり、私たち保育者も誇りと喜びがもてるように、このテーマに込めたいと思います。

(副実行委員長 丹野広子)

### 【サブテーマ】

コロナ禍で何が失われ  
何に気付かされたかを  
確かめ、子どもも大人  
も、人と人との繋がり  
の中で育ちあうことの  
喜びを語り合おう

東日本大震災から  
12年、あの日を語り  
継ぎ、災害から命を  
守るために学び  
伝えよう

日本国憲法・子どもの  
権利条約に基づいて、  
平和で人権が尊重され  
る心豊かな社会を  
築こう

東北の「生活綴り方  
教育」の歴史をつな  
ぎ、子どもの内面を深く  
理解し、仲間の中で  
一人一人を大切にする  
保育実践を学びあおう

すべての子どもの幸せ  
のために、保育の公的  
責任の拡充を求め、安  
心して保育・子育てが  
できる環境をつくろう

## 記念講演

テーマ  
「震災を語り伝える若者たち」

瀬成田 実さん(みやぎ・きずなFプロジェクト)

震災を経験した子どもたちが中学時代に瀬成田さんの命の授業に出会い、総合学習を通し、自分たちの体験を紙芝居にして語り部活動を展開していく経過をお話していただきます。

## 特別講座

1. 民主主義について 吉野作造記念館
2. 架け橋プログラムを検討する 佐藤哲也さん(宮城教育大学)
3. 仲間との育ち合いを大切にする保育  
杉山弘子さん(尚絅学院大学)
4. 文化としての食と保育 安部貴洋さん(山形県立米沢栄養大学)
5. 人として生きる 桜井ひろ子さん
6. 石巻市大川小学校の津波被害について  
佐藤敏郎さん(小さな命の意味を考える会)
7. 幼稚園と家庭との連携について  
坂本由佳里さん(尚絅学院大学付属幼稚園)
8. 作文教育に学ぶ(生活綴り方) 佐藤秀寿さん(小学校教諭)

\*テーマは仮です。

## ～仙台の年末年始の 風物詩～

### 【SENDAI 光のページェント】

街路樹もすっかり葉を落とした12月、市内中心部にある定禅寺通のケヤキ並木に数十万個ものLED電球がきらめく冬の風物詩。温かなオレンジ色に輝くその景色の美しさは言葉を失うほど!!

東日本大震災の津波で電球保管倉庫も被災し、すべての電球が流されてしまいましたが、全国各地の様々な方々から支援を受けて、その年も復興の光として人々の心を照らしました。

### 【どんと祭】

小正月に正月飾りを焚き上げる行事は全国各地で行われ、いろいろな呼び名がありますが、仙台では「どんと祭(どんとさい)」と呼ばれています。中でも国宝・大崎八幡宮のどんと祭が宮城県内で最大規模。その御神火にあたると一年間健康に過ごせると言われています。また、身を切るような寒さの中、白鉢巻き、白さらし姿で参拝する「裸参り」も仙台の風物詩の一つです。



仙台集会  
公式 Twitter

